

| 授業科目名  | 看護学概論  | 講師名   | 伊藤 照美  |  |
|--|--|---|--|--|
| 実施年次・時期  | 1年次 前期   | 時間数(単位)   | 1単位 30時間   |  |
| <p>学修目標</p> <p>1. 看護学を構成している要素を学び、看護の概念と看護の目的を理解し、看護の基本である基礎である基礎知識を身につける。</p> <p>2. 看護師としての倫理的な考えや判断ができる能力・態度を養う。</p> |  |   |  |  |
| 時間   | 単元と単元目標  | 学修内容  | 課題と評価  | 教材   |
| 4  | <p>看護の本質とは何か</p> <p>1. 看護の歴史の変遷や看護理論を知る。</p> <p>2. 看護とは何かをどのように学んでいくかを知る。</p>                                  | <p>1) 看護とは何か</p> <p>2) 看護の定義</p> <p>3) 看護師のイメージ</p> <p>4) 看護学の特性</p> <p>5) 看護の歴史<br/>ナイチンゲールによる近代看護の確立</p> <p>6) 変化している看護<br/>(1) ヘルスプロモーションの定義<br/>(2) 看護の専門性と責務</p> <p>7) 地域における看護と看護の継続性<br/>地域基盤の看護とは</p>                           | <p>看護とは何かについて考えていくことの必要性を知る。</p> <p>・看護師のイメージ</p> <p>・なりたい看護師像</p>   | <p>・看護学概論<br/>(医学書院)</p> <p>・看護覚え書き<br/>(現代社)</p> <p>・配布資料</p> |
| 6  | <p>看護の対象の理解</p> <p>1. 人間の特徴を知り人を統合体ととらえる意味を学ぶ。</p> <p>2. 健康の概念を学び、健康へのアプローチの方法を知る。</p> <p>3. 看護の対象の多様性を知る。</p> | <p>1) 統合体としての人間<br/>(1) 関係的存在としての人間<br/>(2) 人間と環境</p> <p>2) 生活者としての人間<br/>生活を取り巻く社会的環境</p> <p>3) 健康とウェルネス<br/>(1) 健康の概念<br/>(2) ウェルネス</p> <p>4) 家族とその機能<br/>(1) 家族の概念<br/>(2) 家族役割</p> <p>5) 地域と健康</p> <p>6) 国際社会と健康</p> <p>7) 災害看護</p> | <p>①看護の対象としての人間を知る。</p> <p>②健康の概念を述べることができる。</p>   |  |
| 6  | <p>保健・医療・福祉における看護</p> <p>保健・医療・福祉チームとしての看護について学ぶ。</p>  | <p>1) 保健・医療・福祉の理念と看護</p> <p>2) 看護と保健・医療・福祉の連携と協働<br/>(1) 連携と協働<br/>(2) チーム医療<br/>(3) 連携に期待される看護の役割</p> <p>3) 他学科との合同演習</p>  | <p>①他学科との合同演習をとおして、お互いの職業を尊重する気持ちちがもてる。</p> <p>②「保健・医療・福祉チームと看護」について考えることができる。</p> <p>③保健・医療・福祉チームを構成する人々を知る。</p> <p>④チームにおける看護師の役割と機能につ</p> |  |

| 時間  | 単元と単元目標  | 学修内容   | 課題と評価  | 教材  |
|---|--|--|--|---|
|   |  |  | いて学ぶ。<br>⑤レポート提出 1200 字<br>「保健・医療・福祉<br>チームと看護」  | ・看護学<br>概論<br>(医学書院)<br>・看護覚え<br>書き<br>(現代社)<br>・配布資料 |
| 2   | 看護実践の社会心理的<br>理解<br>看護実践の社会、心<br>理的な理解について<br>学ぶ | 1) 自己理解<br>2) 役割と関係<br>3) セクシュアリティ<br>4) スピリチュアリティとケア<br>5) ストレスとストレスマネジメント  | ①自分の身体・心理・<br>社会・発達の側面を<br>考える。<br>②自分がどのような役<br>割をもち、社会のな<br>かで生きているのか<br>を考える。   |   |
| 4   | 看護実践の基盤<br>看護実践における<br>技術、倫理、法につ<br>いて学ぶ。        | 1) 看護実践における技術<br>(1) 看護技術とは何か<br>(2) 看護技術の特性<br>2) 看護実践と倫理<br>(1) 倫理とは<br>(2) 看護における倫理上の問い<br>(3) 看護臨床場面における倫理的葛藤<br>3) 看護と法<br>4) 看護の医療安全 | ①看護臨床場面におけ<br>る倫理的葛藤につい<br>てグループワークを行<br>い、<br>自己の考えを述べる<br>ことができる。<br>②その過程を通して、<br>最もよいと考える看<br>護の方向性について<br>グループの意見をまと<br>めることができる。 |   |
| 2   | 看護の展開<br>看護の展開の思考<br>について学ぶ。                     | 看護実践とクリティカルシンキング<br>問題解決過程   | 看護過程の構成要素<br>とその意味を述べる<br>ことができる。  |   |
| 2   | 専門性への道程<br>看護の専門性に向<br>け教育課程を学ぶ。                 | 1) 看護の専門性<br>2) 看護教育<br>3) 看護実践と理論<br>4) 看護実践と研究   | 看護の専門性につい<br>て理解する。  |   |
| 2   | 看護・看護学の展望<br>看護の展望につい<br>て学ぶ。                    | 1) 人間科学としての看護学<br>2) 専門職者としての責務<br>3) 看護・看護学の展望と課題   | ①看護の展望と課題に<br>ついて述べることが<br>できる。<br>②看護学概論を学び終<br>えて、看護の仕事の<br>イメージの変化につ<br>いて見解を述べるこ<br>とができる。   |   |
| 2   | 筆記試験   |  |  |   |
| 授業の形態・方法<br>講義、演習   |  |  |  |   |
| 評価方法<br>筆記試験 80 点 課題レポート 20 点   |  |  |  |   |
| その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目]<br>看護師を取得後 5 年以上の看護業務実務経験がある教員が看護学概論の授業を行う。 |  |  |  |   |

|  |  |  |  |   |
|--|--|--|--|---|
| 授業科目名  | 看護技術論  | 講師名  | 大西 美穂  |   |
| 実施年次・時期  | 1年次 前期   | 時間数(単位)  | 1単位 30時間   |   |
| 学修目標<br>1. 看護技術を看護実践のなかで活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ。<br>2. 看護技術の特徴を知る。<br>3. 看護技術を適切に実践するための条件を理解する。<br>4. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する。<br>5. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。<br>表記の注意：●演習 △デモ ☆技術確認あり |  |  |  |   |
| 時間   | 単元と単元目標  | 学修内容   | 課題と評価  | 教材  |
| 6  | 看護の方法と技術<br>1. 看護技術の定義を理解する。<br>2. 看護技術の基本原則を理解する。<br>3. 看護場面における安全を脅かす要因について理解する。 | 1) 看護技術とは<br>(1) 看護技術の定義<br>(2) 看護行為・看護実践との関係<br>2) 看護技術の特徴<br>3) 看護技術の基本原則<br>4) 基本原則の優先順位<br>5) 看護介入技術の基盤としての「安全・安楽」<br>(1) 安全を脅かすもの<br>(2) 安楽の意味と安全全般に共通すること<br>6) 看護技術の遂行に求められる能力        | ①看護技術の基本原則について述べる<br>ことができる。<br>②安全を脅かす要因と、その要因を排除する方法について述べる<br>ことができる。 | ・基礎看護技術Ⅰ<br>(医学書院)<br>・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)          |
| 14   | 感染防止の技術<br>1. 感染および院内感染発生の要因を学び、その防止のための基礎知識を理解する。<br>2. 感染防止のための技術を習得する。          | 1) 感染防止の基礎知識<br>(1) 感染成立の条件<br>(2) 院内感染の防止<br>2) 標準予防策<br>(スタンダードプリコーション)<br>(1) 手指衛生・・・・・・・・・・☆<br>(2) 個人防護用具・・・・・・・・●△<br>3) 感染経路別予防策<br>4) 洗浄・消毒・滅菌<br>5) 無菌操作・・・・・・・・●<br>6) 感染性廃棄物の取り扱い | ①感染成立の条件について述べる<br>ことができる。<br>②標準予防策の基礎知識について述べる<br>ことができる。              | ・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)                                |
| 10   | コミュニケーションとインタビューの技術<br>1. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解する。<br>2. 効果的なコミュニケーションのための         | 1) コミュニケーションとは<br>(1) 看護におけるコミュニケーション<br>(2) コミュニケーションの構成要素と成立過程<br>2) 人間関係とコミュニケーション<br>効果的なコミュニケーション   | ①看護におけるコミュニケーションの重要性を述べる<br>ことができる。<br>②インタビューのねらいについて述べる<br>ことができる。     | ・基礎看護技術Ⅰ<br>(医学書院)<br>・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・配布資料 |

| 時間   | 単元と単元目標  | 学修内容   | 課題と評価 | 教材 |
|--|--|--|-------|----|
|  | <p>知識を理解し、コミュニケーション技術を習得する。</p> <p>3. 必要な情報を得るためのコミュニケーション技術を理解する。</p> <p>筆記試験</p> | <p>3) コミュニケーション障害への対応</p> <p>(1) コミュニケーション障害とは</p> <p>(2) コミュニケーションに障害がある人の特徴</p> <p>(3) コミュニケーション障害がある人への対応</p> |       |    |
| <p>授業の形態・方法</p> <p>講義、演習、デモンストレーション、実技</p>                                       |  |  |       |    |
| <p>評価方法</p> <p>筆記試験 80 点、レポート 20 点</p>   |  |  |       |    |
| <p>その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目]</p> <p>看護師を取得後 5 年以上の看護業務実務経験がある教員が看護技術論の授業を行う。</p> |  |  |       |    |

|  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
| 授業科目名  | 生活援助技術 I  | 講師名   | 坂中 麻紀   |   |
| 実施年次・時期  | 1年次 前期  | 時間数(単位)   | 1単位 30時間  |   |
| 学修目標<br>1. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。<br>2. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する。<br>表記の注意：●演習 △デモ ☆技術確認あり |   |   |   |   |
| 時間   | 単元と単元目標   | 学修内容  | 課題と評価   | 教材  |
| 1 2  | 療養を支える技術<br>1. 人間にとっての環境の意味を理解する。<br>2. 看護援助における環境のとらえ方の視点を理解する。<br>3. 室内の環境条件を理解する。<br>4. 生活環境を整えるための技術を習得する。      | 1) 環境の意義<br>2) 看護援助における環境の位置づけ<br>3) 病床環境の調整<br>(1) 療養環境の調整<br>(2) 病室環境のアセスメントと調整<br>(3) ベッド周囲の環境調整・・・●<br>(4) ベッドメイキング・・・・・・・・☆  | ①療養生活の環境を述べるができる。<br>②病室の環境のアセスメントと調整について述べるができる。<br>③ベッドメイキングが実施できる。 | ・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・看護覚え書き<br>(現代社)<br>・基礎看護技術Ⅰ<br>(医学書院)<br>・配布資料 |
| 1 4  | 姿勢・活動への看護技術<br>1. 身体を動かす、保持することの生理的・精神的意義を理解する。<br>2. ボディメカニクスの原理を活用することによる効果を理解する。<br>3. 安全・安楽な体位変換・保持、移動の技術を習得する。 | 1) 体位と移動の基礎知識<br>(1) 身体を動かすこと・保持することの意義 ・生理的意義 ・精神的意義<br>2) 基本的活動の援助<br>(1) よい姿勢とは<br>(2) 日常生活動作<br>(3) ボディメクス・・・・・・・・●<br>(4) 体位変換・・・・・・・・●<br>(5) 移動・・・・・・・・●<br>(6) 移乗・移送・・・・・・・・● | ①基本的活動の基礎知識について述べるができる。<br>②体位変換・移乗・移送動作の援助方法を述べるができる。                | ・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)  |
| 4  | 睡眠・覚醒への看護技術<br>1. 睡眠のメカニズムの理解と、必要性に応じた睡眠のとり方を理解する。<br>2. 睡眠に関する障害についてのアセスメントを学び、必要な援助方法を理解する。<br>筆記試験               | 1) 睡眠・覚醒の基礎<br>(1) 睡眠の種類<br>(2) 睡眠抑制のメカニズム<br>2) 睡眠・覚醒への援助の実際<br>(1) 睡眠障害のアセスメント<br>(2) 睡眠・休息の援助の実施方法   | ①睡眠・覚醒の基礎知識について述べるができる。<br>②睡眠・休息の援助について述べることができる。                    | ・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・看護覚え書き<br>(現代社)                                |
| 授業の形態・方法<br>講義、演習、デモンストレーション、実技  |   |   |   |   |
| 評価方法<br>筆記試験 60点 レポート・技術練習への参加 40点   |   |   |   |   |
| その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目]<br>看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が生活援助技術Ⅰの授業を行う。  |   |   |   |   |

| 授業科目名                           | 生活援助技術Ⅱ   | 講師名  | 野尻 千香   |   |
|---------------------------------|---|--|---|---|
| 実施年次・時期                         | 1年次 前期  | 時間数(単位)  | 1単位 30時間  |   |
| 学修目標                            |   |  |   |   |
| 1. 日常生活への看護を学び、その技術を習得することができる。 |   |  |   |   |
| 表記の注意：●演習    △デモ    ☆技術確認あり     |   |  |   |   |
| 時間                              | 単元と単元目標   | 学修内容   | 課題と評価   | 教材  |
| 12                              | 身体を清潔に保つ技術<br>1. 身体を清潔に保つ技術について理解する<br>2. 全身清拭の技術を習得する。 | 1) 清潔援助の基礎知識<br>(1) 皮膚・粘膜の構造と機能<br>(2) 清潔援助の効果<br>2) 清潔援助の実際<br>(1) 入浴・シャワー浴<br>(2) 全身清拭・・・・・・・・・・☆<br>(3) 洗髪・・・・・・・・・・●<br>(4) 手浴<br>(5) 足浴とフットケア・・・・・・・・●<br>(6) 陰部洗浄・・・・・・・・・・●<br>(7) 洗面<br>(8) 眼・耳・鼻の清潔<br>(9) 整容<br>(10) 口腔ケア・・・・・・・・・・● | ①清潔の意義を述べる<br>ことができる。<br>②清潔保持のための<br>援助の目的と方法<br>を述べること<br>ができる。<br>③全身清拭を実施<br>することができる。        | ・解剖<br>生理学<br>(医学書院)<br>・基礎看護<br>技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・看護覚え<br>書き<br>(現代社)<br>・配布資料 |
| 2                               | 衣生活への看護技術<br>衣生活への看護の<br>技術を習得する。                       | 1) 衣生活の援助の基礎知識<br>(1) 衣生活を用いることの意義<br>(2) 熱産生と熱放散<br>(3) 被服気候<br>(4) 衣生活に関するニーズのアセス<br>メント<br>2) 衣生活の援助の実際<br>(1) 病衣の選び方<br>(2) 衣類・寝衣交換・・・・・・・・●☆  | ①衣生活の援助の基<br>礎知識について述<br>べることのでき<br>る。<br>②寝衣交換の目的と<br>方法を述べるこ<br>とができる。<br>③寝衣交換を実施<br>することができる。 | ・基礎看護<br>技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・配布資料   |
| 6                               | 食生活への看護技術<br>食生活への看護の<br>技術を習得する。                       | 1) 食事援助の基礎知識<br>(1) 人間にとっての「食」<br>(2) 栄養状態および食欲・摂取能力の<br>アセスメント<br>(3) 医療施設で提供される食事<br>2) 食事介助・・・・・・・・・・●<br>3) 摂食・嚥下訓練<br>4) 非経口栄養摂取の援助<br>経管栄養法・中心静脈栄養法  | ①食事の意義を述べ<br>ることができる。<br>②対象者に応じた食<br>事援助技術の方法<br>を述べるこ<br>とができる。                                 | ・基礎看護<br>技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・看護覚え<br>書き<br>(現代社)<br>・配布資料                         |

| 時間  | 単元と単元目標                             | 学修内容  | 課題と評価   | 教材  |
|---|-------------------------------------|---|---|---|
| 10  | 排泄への援助<br>排泄への看護の技術を学ぶ。<br><br>筆記試験 | 1) 自然排尿および自然排便の介助<br>(1) 自然排尿および自然排便の基礎知識<br>・排泄の意義<br>・排泄機能と排泄のメカニズム<br>・観察とアセスメント<br>(2) 自然排尿および自然排便の介助の実際<br>・トイレにおける排泄介助<br>・床上排泄援助・・・●<br>・おむつによる排泄援助・・・●<br>2) 導尿<br>(1) 一時的導尿<br>(2) 持続的導尿<br>3) 排便を促す援助<br>(1) 排便を促す援助の基礎知識<br>(2) 浣腸<br>(3) 摘便 | ①排泄の意義を述べることができる。<br>②対象者に応じた排泄の援助技術の方法を述べることができる。<br>③導尿の目的や方法について述べることができる。<br>④排便を促す援助の目的や方法について述べるができる。 | ・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・看護覚え書き<br>(現代社)<br>・配布資料 |
| 授業の形態・方法<br>講義、演習、デモンストレーション、実技                                       |                                     |   |   |   |
| 評価方法<br>筆記試験 80点、レポート・技術練習への参加 20点                                    |                                     |   |   |   |
| その他の事項 【実務経験のある教員による授業科目】<br>看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が生活援助技術Ⅱの授業を行う。 |                                     |   |   |   |

| 授業科目名   | ヘルスアセスメント技術   | 講師名  | 坂中 麻紀  |                                      |
|---|---|--|--|--------------------------------------|
| 実施年次・時期   | 1年次 後期  | 時間数(単位)  | 1単位 30時間   |                                      |
| <p>学修目標</p> <p>1. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得する。</p> <p>2. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することができる。</p> <p>3. フィジカルアセスメントの概念と技術を学び、それによって得られる客観的データについて理解することができる。</p> <p style="text-align: right;">表記の注意：●演習 △デモ ☆技術確認あり</p> |   |  |  |                                      |
| 時間  | 単元と単元目標   | 学修内容   | 課題と評価  | 教材                                   |
| 10  | <p>バイタルサインの観察の技術</p> <p>1. 呼吸・循環・体温の観察ポイントを理解し、正確に測定する技術を習得する。</p> <p>2. 測定値の変動をきたす因子を理解する。</p> <p>3. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解する。</p> <p>スクリーニングの技術</p> <p>1. 身体各部の計測の目的・意義を理解する。</p> <p>2. 測定値の変動をきたす因子を理解する。</p> <p>3. 正確な測定値を得るための測定技術を習得する。</p> <p>4. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解する。</p> <p>看護場面のフィジカルアセスメント</p> | <p>1) バイタルサインとは</p> <p>2) バイタルサインの観察</p> <p>(1) 技術の目的</p> <p>(2) 呼吸・体温・脈拍・血圧調整のメカニズムと影響因子</p> <p>3) 技術の実際・技術のポイント</p> <p>(1) 脈拍・・・・・・・・・・☆</p> <p>(2) 呼吸・・・・・・・・・・☆</p> <p>(3) 体温・・・・・・・・・・☆</p> <p>(4) 血圧・・・・・・・・・・☆</p> <p>(5) 意識レベル</p> <p>1) 全身の観察技術の目的とポイント</p> <p>2) 自覚症状と精神・身体機能の把握技術の目的とポイント</p> <p>3) 身体計測</p> <p>(1) 身長・体重・腹囲・・・・・・・・●</p> <p>(2) 技術の目的とポイント</p> | <p>①バイタルサインを正確に測定する方法について述べることができる。</p> <p>②バイタルサインを正確に測定することができる。</p> <p>①スクリーニング技術の目的・ポイントを述べることができる。</p> <p>②身体計測の内容や方法について述べることができる。</p> | <p>・基礎看護技術 I (医学書院)</p> <p>・配布資料</p> |
| 10  | <p>1. フィジカルアセスメント技術の具体的方法と留意点について理解する。</p>  | <p>1) フィジカルアセスメントとは</p> <p>2) 病態の観察者としての役割とフィジカルアセスメント</p> <p>(1) 患者の全身状態のアセスメント</p> <p>(2) フォーカスアセスメント</p>  | <p>①看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的について述べるができる。</p>  |                                      |

| 時間  | 単元と単元目標  | 学修内容  | 課題と評価   | 教材   |
|---|--|---|---|--|
|   |  | 3) 援助の提供者としての役割とフィジカルアセスメント<br>4) フィジカルアセスメントの準備<br>(1) 環境の整備<br>(2) 必要物品の準備<br>(3) 対象者の準備<br>5) 問診の目的とポイント<br>6) 視診、触診、打診、聴診<br>(1) 観察時のポイント<br>(2) 観察で判断できること   | ②フィジカルアセスメントの方法について述べる<br>ことができる。                         |  |
| 4   | 2. 系統別フィジカルアセスメントについて、その方法と主な正常所見、異常所見について理解する。  | 7) 系統別解剖学的構造の理解とアセスメント<br>(1) 皮膚・爪のアセスメント<br>(2) 頭頸部のアセスメント<br>(3) 眼のアセスメント<br>(4) 耳のアセスメント<br>(5) 呼吸器のアセスメント<br>(6) 心臓・血管系のアセスメント<br>(7) 乳房・腋窩のアセスメント<br>(8) 腹部のアセスメント<br>(9) 筋・骨格のアセスメント<br>(10) 神経系のアセスメント |   | 臨床看護総論<br>(医学書院)                             |
| 6   | ケースを用いたフィジカルアセスメント<br>1. 呼吸・循環・体温のつながりについて理解する。<br>2. フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データを理解する。<br>3. 観察事項の意味を理解する。<br>筆記試験 | 1) 全身状態のアセスメント<br>(1) バイタルサインの活用<br>(2) バイタルサインの異常の意味<br>(3) 臨床経過のアセスメント<br>(4) 早期発見のアセスメント<br>(5) 安全な援助をするためのアセスメント<br>2) 効果的な援助をするためのアセスメント<br>3) ケースを用いたフィジカルアセスメント・・・●<br>＊模擬患者を対象にフィジカルアセスメントが実施できる。     | フィジカルアセスメントの活用について述べる<br>ことができる。<br><br>フィジカルアセスメントが実施できる | ・基礎看護技術 I<br>(医学書院)<br>・フィジカルアセスメント<br>・配布資料 |
| 授業の形態・方法<br>講義、演習、デモンストレーション、実技   |  |   |   |  |
| 評価方法<br>筆記試験 80 点、レポート・技術練習への参加 20 点  |  |   |   |  |
| その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目]<br>看護師を取得後 5 年以上の看護業務実務経験がある教員がヘルスアセスメント技術の授業を行う。 |  |   |   |  |

| 授業科目名   | 診療補助技術                 | 講師名  | 坂中 麻紀  |                             |
|---|------------------------|--|--|-----------------------------|
| 実施年次・時期   | 1年次 後期                 | 時間数(単位)  | 1単位 30時間   |                             |
| 学修目標<br>1. 検査・治療・処置における看護について学び、その技術を習得することができる。<br>表記の注意：●演習    △デモ    ☆技術確認あり |                        |  |  |                             |
| 時間  | 単元と単元目標                | 学修内容   | 課題と評価  | 教材                          |
| 2   | 検査時の介助技術について理解する。      | 検査の介助<br>検査に関する基礎知識<br>(1) 検体の採取とその取扱い<br>(2) 検査の種類と介助の方法  | 検査の介助に関する基礎知識を述べることができる。   | ・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・配布資料 |
| 6   | 検査の介助について理解する。         | 1) 採血<br>(1) 注射器を用いた静脈血の採血<br>. . . . . ●<br>(2) 真空採血管を用いた静脈血の採血<br>(3) 血糖測定 . . . . . ●<br>2) 心電図検査の基礎知識 . . . . . ●  | ①エビデンスに基づいた採血方法を理解し述べることができる。<br>②血糖測定の正しい方法を理解し述べることができる。<br>③心電図モニターの使用方法を述べることができる。 | ・臨床看護総論<br>(医学書院)           |
| 2   | 医療機器の原理と実際について理解する。    | 1) 医療機器を使用する環境<br>2) 人工呼吸器、除細動器  | 機器の取り扱いについて述べることができる。  |                             |
| 6   | 治療・処置の介助について理解する。      | 治療・処置の介助<br>1) 創傷管理<br>(1) 創傷管理の基礎知識<br>(2) 創傷処置 . . . . . △<br>(3) 褥瘡処置 . . . . . △<br>2) 侵襲的処置と看護<br>(1) 穿刺の介助<br>(2) 洗浄の介助<br>3) 輸液療法<br>4) 化学療法<br>5) 放射線療法<br>6) 集中治療 | ①創傷管理の基礎知識を述べることができる。<br>②侵襲的処置における看護について述べることができる。                                    |                             |
| 14  | 与薬と注射の基礎を学び、その技術を習得する。 | 与薬と注射<br>1) 与薬の基礎知識<br>2) 与薬における事故防止の実際<br>(1) 誤薬防止<br>(2) 患者誤認防止<br>(3) 針刺し防止策  | ①与薬の基礎知識を述べることができる。<br>②与薬における事故防止の重要性について述べることができる。                                   |                             |

| 時間   | 単元と単元目標 | 学修内容   | 課題と評価   | 教材 |
|--|---------|--|---|----|
|  | 筆記試験    | 3) 与薬の実際<br>(1) 経口与薬<br>(2) 吸入・・・・・・・・・・・・・・・・△<br>(3) 点眼・・・・・・・・・・・・・・・・△<br>(4) 点鼻・・・・・・・・・・・・・・・・△<br>(5) 経皮的与薬<br>(6) 直腸内与薬・・・・・・・・・・△<br>(7) 注射<br>注射の実施法<br>・皮下注射・・・・・・・・・・●<br>・皮内注射・・・・・・・・・・△<br>・筋肉内注射・・・・・・・・●<br>・静脈内注射<br>○ワンショット・・・・・・・・△<br>○点滴静脈内注射・・●<br>○輸液・シリンジポンプ<br>を用いた輸液・・・・● | ③与薬における看護師の役割を述べる<br>ことができる。<br>④注射の基礎知識を述べる<br>ことができる。<br>⑤エビデンスに基づいて注射が実施<br>できる。<br>⑥輸液管理に必要な基礎知識を<br>述べる<br>ことができる。<br>⑦輸液・シリンジポンプの<br>取り扱いを理解し述べる<br>ことができる。 |    |
| 授業の形態・方法<br>講義、演習、デモンストレーション、実技                                      |         |  |   |    |
| 評価<br>筆記試験 80点、レポート・技術練習への参加 20点                                     |         |  |   |    |
| その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目]<br>看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が診療補助技術の授業を行う。 |         |  |   |    |

| 授業科目名  | 臨床看護総論  | 講師名  | 野尻 千香  |   |
|--|---|--|--|---|
| 実施年次・時期  | 1年次 前期  | 時間数(単位)  | 1単位 30時間   |   |
| 学修目標<br>1. 健康障害の各期の特徴を理解し、援助方法を修得する。<br>2. 主要な症状を示す対象者への援助について理解する。<br>表記の注意：●演習 △デモ ☆技術確認あり |   |  |  |   |
| 時間   | 単元と単元目標   | 学修内容   | 課題と評価  | 教材  |
| 10   | 1. ライフサイクルからとらえた対象と家族の健康上のニーズを理解する。<br>2. 健康状態の経過に基づく看護を理解する。 | 1) ライフサイクルと発達段階<br>2) 健康上のニーズ<br>3) 家族の健康上のニーズ理解<br><br>1) 健康の維持・増進の看護<br>2) 急性期における看護<br>(1) 急性期の特徴<br>(2) 患者のニーズ<br>(3) 援助技術<br>3) 慢性期における看護<br>(1) 慢性期の特徴<br>(2) 患者のニーズ<br>(3) 援助技術<br>4) リハビリテーション期における看護<br>(1) リハビリテーション期の特徴<br>(2) 患者のニーズ<br>(3) 援助技術<br>身体可動運動・・・・・・・・●<br>5) 終末期における看護<br>(1) 終末期の特徴<br>(2) 患者のニーズ<br>(3) 援助技術<br>・死後のケア・・・・・・・・△ | 健康各期における援助の要点を述べることができる。                                       | ・基礎看護技術Ⅱ<br>(医学書院)<br>・配布資料<br>・臨床看護総論<br>(医学書院)<br>・配布資料 |
| 20   | 1. 主要症状を示す対象者への看護を理解する。                                       | 1) 呼吸・循環機能障害の援助<br>①酸素吸入療法<br>・酸素療法とは<br>・酸素療法の適応<br>・酸素吸入に使われる器具の特徴<br>・酸素療法の副作用<br>・酸素ボンベの取り扱い・・・・・・・・●<br>②吸引<br>・一時的吸引(口腔・鼻腔・気管)<br>・・・・・・・・●<br>・持続的吸引(胸腔ドレナージ)   | ①呼吸を整える援助方法について述べる<br>ことができる。<br>②循環を整える援助方法について述べる<br>ことができる。 |   |

| 時間   | 単元と単元目標 | 学修内容   | 課題と教科   | 教材 |
|--|---------|--|---|----|
|  | 筆記試験    | ③排痰ケア <ul style="list-style-type: none"> <li>・体位ドレナージ</li> <li>・スクイーピング</li> <li>・ハフイング</li> </ul> ④末梢循環促進ケア           ⑤体温管理の技術           ⑥発熱時の援助           ⑦ うつ熱時の援助（熱中症の場合）           ⑧罨法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・罨法の意義</li> <li>・罨法の効果と適応</li> <li>・温罨法・冷罨法・・・・・・・・●</li> <li>・生理学的効果、安楽を期待する場合</li> <li>・援助方法</li> </ul> 2) 排泄機能障害           ①導尿 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時的導尿・・・・・・・・●</li> <li>・持続的導尿・・・・・・・・●</li> </ul> ②排便を促す援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・排便を促す援助の基礎知識</li> <li>・浣腸・・・・・・・・●</li> <li>・摘便</li> </ul> 3) 栄養・代謝障害           (1) 経管栄養法・・・・・・・・△           (2) 中心静脈栄養法           ①経管栄養法・・・・・・・・●           4) 活動・休息（不活動・睡眠）障害           5) 認知・知覚障害           6) コーピングに関連する症状           7) 安全・生体防御に関する症状 | ③導尿の目的、排便を促す援助技術について述べることができる。           ④対象者に応じた援助技術について述べることができる。 |    |
| 授業の形態・方法<br>講義、演習、デモンストレーション、実技  |         |  |   |    |
| 評価方法<br>筆記試験 80 点、レポート・技術練習への参加 20 点                                   |         |  |   |    |
| その他の事項 【実務経験のある教員による授業科目】<br>看護師を取得後 5 年以上の看護業務実務経験がある教員が臨床看護総論の授業を行う。 |         |  |   |    |

| 授業科目名                     | 看護過程展開技術 I  | 講師名   | 大西 美穂   |  |
|---------------------------|---|---|---|--|
| 実施年次・時期                   | 1年次 後期  | 時間数 (単位)  | 1単位 30時間  |  |
| 学修目標                      |   |   |   |  |
| 1. 看護過程の展開の技術を理解することができる。 |   |   |   |  |
| 時間                        | 単元と単元目標   | 学修内容  | 課題と評価   | 教材   |
| 2                         | 看護実践における看護過程<br>1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。<br>2. 看護過程を用いることの意義を理解する。   | 1) 看護過程とは<br>2) 看護過程の5つの構成要素<br>3) 構成要素間の関連<br>4) 看護過程を実践することの意義  | ①看護過程を構成する要素を述べることができる。<br>②看護過程を用いる意義を述べることができる。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学概論 (医学書院)</li> <li>・基礎看護技術 I (医学書院)</li> <li>・配布資料</li> </ul> |
| 4                         | 看護過程の基礎となる考え方<br>1. 問題解決過程を理解する。<br>2. クリティカルシンキングと看護過程の関係を理解する。<br>3. 看護理論と看護過程の関係を理解する。<br>4. 看護過程の展開における法的・倫理的側面を理解する。 | 1) 問題解決過程とは<br>2) 問題解決に必要な力<br>3) クリティカルシンキング<br>(1) クリティカルシンキングとは<br>(2) クリティカルな思考の要素<br>4) 看護理論と看護過程の関係<br>5) 看護過程の法的・倫理的側面<br>(1) 看護の責務と看護師の倫理要綱<br>(2) 看護過程の倫理的側面<br>(3) 看護過程と個人情報<br>(4) 看護事故と法的責任 | ①問題解決過程に必要な力を述べることができる。<br>②クリティカルな思考の要素を述べることができる。<br>③看護理論と看護過程の関係を述べることができる。<br>④看護過程の倫理的側面を述べることができる。 |  |
| 2                         | 看護過程の各段階<br>アセスメントの基本的な考え方と実践方法を理解する。   | アセスメント (情報の収集と分析)<br>(1) 情報収集とは<br>(2) 情報収集の方法<br>(3) 情報の分析方法<br>(4) 全体像の把握   | 情報の収集・分析内容とその方法を述べるができる。  |  |
| 1 2                       | 看護過程の各段階<br>1. 看護問題と看護診断の基本的な考え方と実践方法を理解する。   | 看護問題の明確化 (看護診断)<br>(1) 看護問題と看護診断<br>(2) 看護問題の種類<br>(3) 看護問題 (看護診断) の表記方法<br>(4) 看護問題の優先順位<br>(5) 共同問題   | ①看護問題の明確化と優先順位を決定するための判断内容を述べることができる<br>②看護診断、共同問題の考え方を述べることができる。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学概論 (医学書院)</li> <li>・基礎看護技術 I (医学書院)</li> <li>・配布資料</li> </ul> |

| 時間  | 単元と単元目標                                     | 学修内容  | 課題と評価  | 教材 |
|---|---|---|--|----|
| 4   | 2. 看護計画の立案方法を理解する。                          | 1) 期待される成果の明確化<br>(1) 期待される成果の表記<br>(2) 共同問題と期待される成果<br>2) 看護計画の立案<br>(1) 看護計画立案の原則<br>(2) 看護計画の表記            | ①期待される成果の意味と表記方法を述べることができる。<br>②目標達成のための介入方法を述べることができる。    |    |
| 2   | 3. 実施の流れと評価の方法を理解する。<br>4. 看護記録の目的と機能を理解する。 | 1) 実施<br>実施の基本<br>2) 評価<br>(1) 評価を行う意義<br>(2) 評価を行う時期と方法<br>3) 看護記録<br>(1) 看護記録の目的<br>(2) 構成要素<br>(3) 記録時の留意点 | ①評価の意義・時期・方法を述べる<br>ことができる。<br>②看護記録の目的・留意点を述べる<br>ことができる。 |    |
| 4   | 看護過程の活用<br>事例を用いて看護過程の展開方法を理解する。<br>筆記試験    | 事例を用いた看護過程の展開   | 事例を用いて看護過程の展開を復習し学ぶことができる。                                 |    |
| 授業の形態・方法<br>講義  |   |   |  |    |
| 評価方法<br>筆記試験 60点、レポート 40点   |   |   |  |    |
| その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目]<br>看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護過程展開技術Ⅰの授業を行う。 |   |   |  |    |